

都市環境の快適性に関する市街地住民の意識調査

02A3723 地子給 浩志 02A3745 松野 洋史
指導教員 片山 正敏

1. はじめに

都市生活者にとって、各種都市施設は、時として便利良く感じることもあれば、不便に感じることもある。快適で住みよい都市環境の創出にあたっては、このような都市環境の快適性にも配慮した、基本計画が大切である。この観点から、昨年に続いて都市環境の快適性に関する市街地住民の意識について、アンケート調査を実施した。

2. アンケート調査の概要

北九州市八幡西区近辺の市街地住民に対するアンケート調査の概要を表－1に示す。調査場所の市街地区においてアンケート調査票を配布・留置・回収の方法により行った。

11時～16時の間に訪問しアンケートを手渡しで配り、その日から3日後に回収に行く方法をとった。

表－1 アンケート調査の概要

調査対象	北九州市八幡西区近辺の市街地住民
調査期間	平成17年8月下旬～9月下旬
調査方法	居住地を訪問し、配布・留置・回収により行った。
調査項目	属性3、交通に関する快適性11、道に関する快適性5、環境・衛生に関する快適性9、公共・公益施設に関する快適性5、その他に関する快適性7 (合計37項目)
配布数	130部 (有効回答部数 118部)
有効回収率	90.8%

なお、有効回収率としては、ほぼ全項目にわたって回答しているものを有効回答とした。

3. 回答者の属性

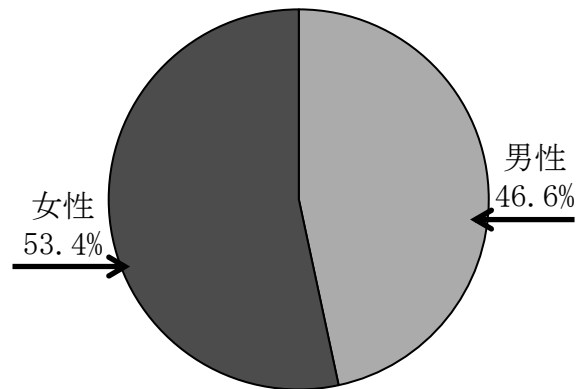
回答者の属性は、次のとおりである。

(1) 回答者の性別 (図－1)

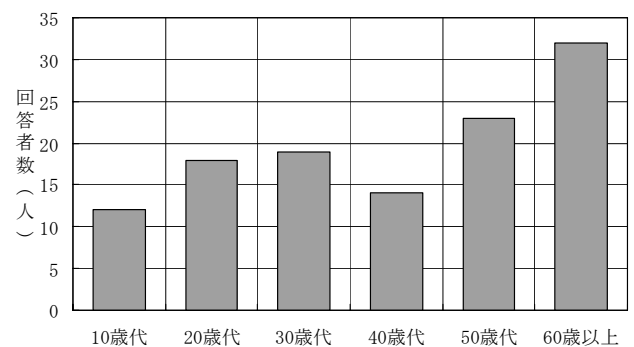
回答者の性別は、女性：53.4%、男性：46.6%と、女性のほうが多い。

(2) 回答者の年齢 (図－2)

回答者の年齢は、10歳代 (若者) から60歳以上 (老人) の幅広い年齢層が占めている。



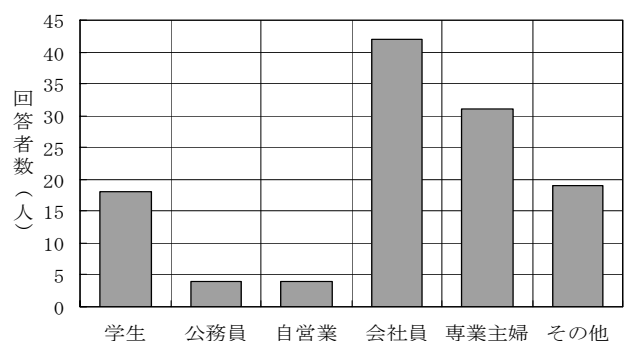
図－1 回答者の性別



図－2 回答者の年齢

(3) 回答者の職業 (図－3)

回答者の職業は、会社員が42人と多く、続いて、専業主婦31人、その他 (年金生活者など) 19人、学生18人となっている。反対に少ないのは自営業と公務員の4人である。



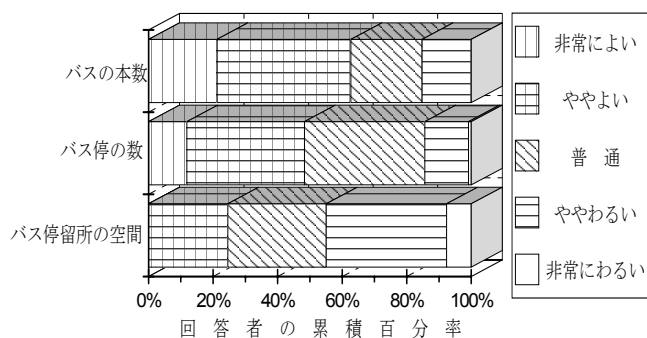
図－3 回答者の職業

4. 交通に関する快適性

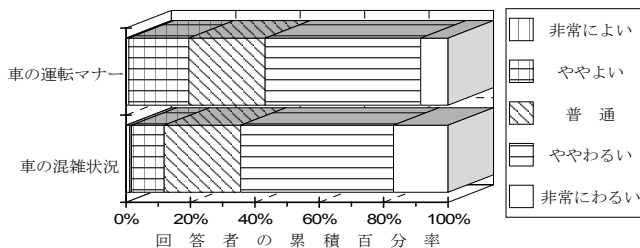
交通に関する快適性について、「バスの本数」、「バス停の数」、「バス停留所の空間」と「車の運転マナー」、「車の混雑状況」について検討する。（図－４・５参照）

バスに関する快適性では、バスの本数の回答で“よい”と答えている人が約６３％、バス停の数は約４８％、バス停留所の空間は約２５％となっている。バスの本数とバス停の数は、やや満足度が高いが、バス停留所の空間ではやや満足度が低くなっている。

また、車に関する快適性では、運転マナーと混雑状況は“わるい”という回答がともに５０％を超えている。特に混雑状況は不快感が強いという結果になっている。



図－４ 交通（バス）に関する快適性



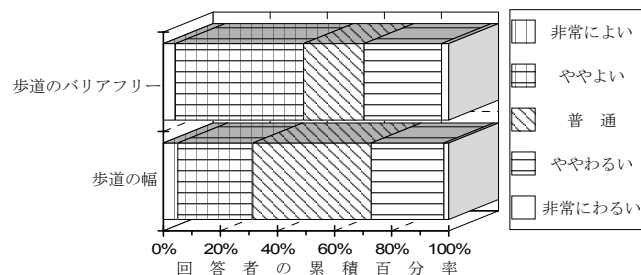
図－５ 交通（車）に関する快適性

5. 道に関する快適性

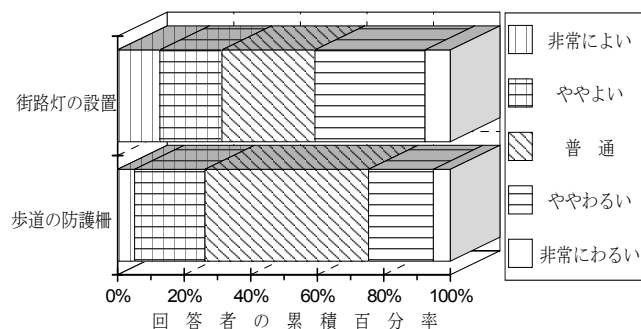
道に関する快適性について、「歩道のバリアフリー」、「歩道の幅」と「街路灯の設置」、「歩道の防護柵」について検討する。（図－６・７参照）

歩道に関する快適性では、歩道のバリアフリーの回答で“よい”と答えている人が約４９％、歩道の幅は約３１％となっている。歩道のバリアフリーの回答で“わるい”と答えている人が約３０％、歩道の幅は約２７％となっている。“普通”と答えている人は、歩道のバリアフリーは約２１％、歩道の幅は約４２％となっている。歩道のバリアフリーは、やや満足しているが、歩道の幅では、どちらとも言えないようである。

また、安全施設に関する快適性では、街路灯の設置の回答で“よい”と答えている人が約３１％、歩道の防護柵は約２６％となっている。このことから、両方とも満足度が低い結果となっている。



図－６ 道（歩道）に関する快適性

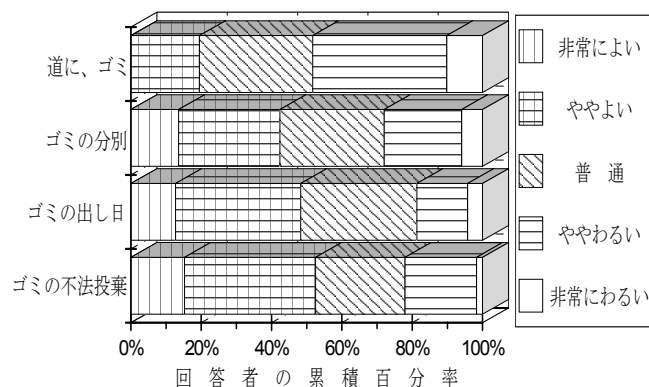


図－７ 道（安全施設）に関する快適性

6. 環境・衛生に関する快適性

環境・衛生に関する快適性について、「道に、ゴミ」、「ゴミの分別」、「ゴミ出し日」、「ゴミの不法投棄」を比較検討する。（図－８参照）

ゴミに関する快適性について、道にゴミが落ちていないかの回答で“よい”と答えている人が約２０％、ゴミの分別は約４２％、ゴミ出し日は約４８％、ゴミの不法投棄は約５３％となっている。このことから、ゴミの分別、ゴミ出し日、ゴミの不法投棄では、比較的に満足しているが、道にゴミが落ちていないかについては不満足ようである。



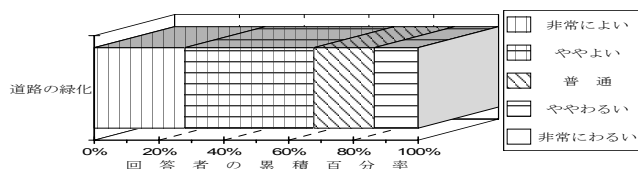
図－８ 環境・衛生（ゴミ）に関する快適性

7. 公共・公益施設に関する快適性

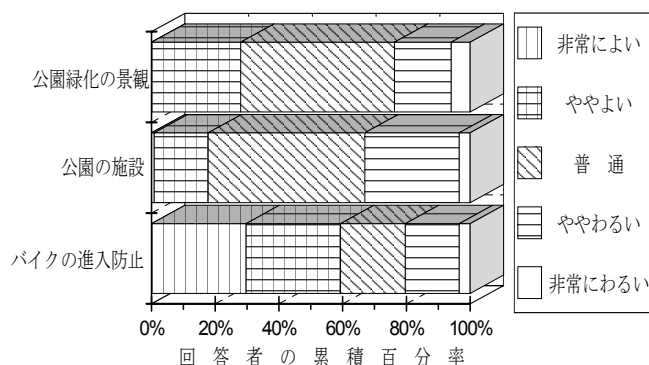
公共・公益施設に関する快適性について、「道路の緑化」と「公園緑化の景観」、「公園の施設」、「バイクの進入防止」について検討する。（図－9・10参照）

植栽に関する快適性について、道路の緑化の回答で“よい”と答えている人が約68%となっており、満足度が高い結果となっている。

また、公園に関する快適性について、公園緑化の景観の回答で“よい”と答えている人が約28%、公園の施設は約18%、バイクの進入防止は約59%となっている。このことから、公園緑化の景観と公園の施設は、比較的満足度が低いが、バイクの進入防止については満足度が高い結果となっている。



図－9 公共・公益施設（植栽）に関する快適性



図－10 公共・公益施設（公園）に関する快適性

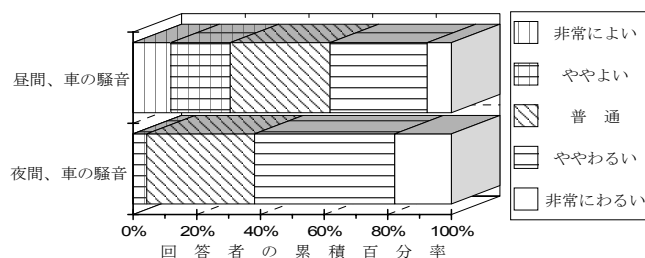
8. その他に関する快適性

その他の快適性に関しては、「昼間、車の騒音」、「夜間、車の騒音」と「バイクの騒音」、「電車の騒音」について検討する。（図－11・12参照）

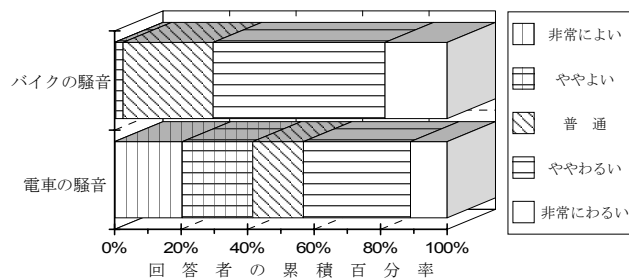
車の騒音に関する快適性について、昼間の車騒音の回答で“よい”と答えている人が約31%、夜間の車騒音は約4%となっている。昼間の車騒音は約38%の人が、夜間の車騒音では約62%の人が“騒がしい”と感じており、昼間の車よりも、夜間の車のほうが“騒がしい”と感じていることが分かる。

また、バイクと電車の騒音に関する快適性について、バイクの騒音の回答で“よい”と答えている人が約3%、電車の騒音は約42%となっている。バイクの

騒音の回答で“わるい”と答えている人が約70%、電車の騒音は約43%となっている。このことから、バイクの騒音は“騒がしい”と感じていることが分かる。電車の騒音では、どちらとも言えないようである。



図－11 その他（車の騒音）に関する快適性



図－12 その他（バイク、電車の騒音）に関する快適性

9. クロス集計について

「年齢」、「性別」、「職業」の3項目の属性と、「交通に関する快適性」、「道に関する快適性」、「環境・衛生に関する快適性」、「公共・公益施設に関する快適性」、「その他に関する快適性」の各項目について、クロス集計を行った。ここでは、上記項目に関する快適性について述べる。傾向としては各項目ともに、年齢、性別、職業を問わず、全体的には“よい”と答えている人が多く、“わるい”と答えた人が少ないが、「車の運転マナー」「車の混雑状況」「夜間、車の騒音」「バイクの騒音」では、“わるい”と答えた人が多い結果となっている。

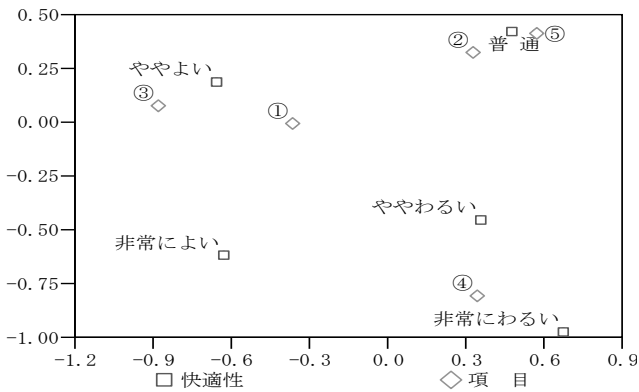
10. SPSSによる分析結果

SPSSを用いて、コレスポンデンス分析およびクラスター分析を行った。（図－13～15参照）

（1）コレスポンデンス分析

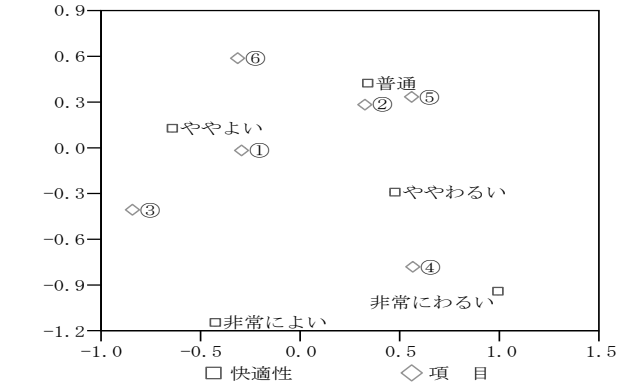
「ゴミに関する快適性」に関して、コレスポンデンス分析を行った。（図－13参照）分析した項目は、道にゴミは落ちていないか、ゴミの分別、ゴミ出し日、ゴミの不法投棄、動物によりゴミの散乱の5項目である。ゴミ出し日、道にゴミは落ちていないかの快適性に対しては同じような反応を示しており、“ややよい”

と感じている。逆にゴミの不法投棄は、“非常にわるい”と感じていることが分かる。ゴミの分別と動物によりゴミの散乱については“普通”と感じている。



①：道にゴミが落ちてないか、②：ゴミの分別、③：ゴミ出し日
④：ゴミの不法投棄、⑤：動物によりゴミの散乱
図－１３ コレスポンデンス分析結果（ゴミに関する
こと）

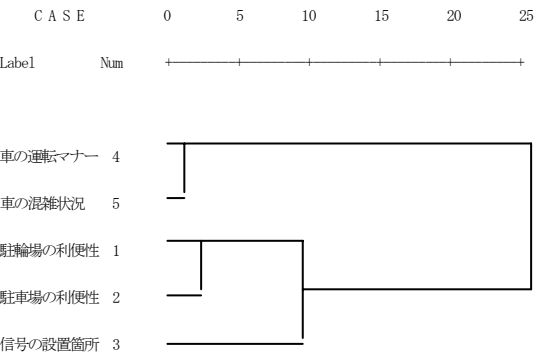
次に分析した項目は、歩道のバリアフリー、道の幅の快適性、道の舗装、街路灯の設置、歩道の防護柵、街での落書き場所の6項目である。項目①と⑥は「ややよい」と「普通」の間に位置しているが、どちらかというと「ややよい」よりになっていることが分かる。項目②と⑤は「普通」との傾向を持っていることから、普通と感じていることが分かる。項目③は「ややよい」との傾向を持っていることから、ややよいと感じていることが分かる。項目④は「ややわるい」と「非常にわるい」の間に位置しているが「非常にわるい」よりになっていることが分かる。その結果「非常にわるい」との傾向を持っている。



①：歩道のバリアフリー、②：道の幅の快適性、③：道の舗装
④：街路灯の設置、⑤：歩道の防護柵、⑥：街での落書き場所
図－１４ コレスポンデンス分析結果（道に関する
と）

(2) クラスター分析

「道に関すること」、「環境・衛生に関すること」、「公共・公益施設に関すること」、「その他の快適性に関すること」についてはそれぞれ1つのグループに「交通に関すること」については2つのグループに分けて快適性に関するクラスター分析を行った。（図－15参照）



図－１５ クラスター分析結果（交通に関すること）
上図のデンドログラムをみると、大きく分けると2つ、小さく分けると3つに分類することができる。
①「車の運転マナー」「車の混雑状況」の2項目
②「駐車場の利便性」「駐車場の利便性」の2項目
③「信号の設置箇所」

このグループをさらに大きく分けると、①および②、③となる。このことから、交通に関する快適性のクラスター分析結果では、「自動車の運転マナー」と「自動車の混雑状況」は似たもの同士で、また「駐車場の利便性」と「駐車場の利便性」も似たもの同士であると感じていることが分かる。

1.1. おわりに

都市環境の快適性は、自然に関することや、安全性、利便性などの要素が挙げられる。今回は、交通、道、環境・衛生、公共・公益、その他に関する快適性について市街地住民の意識を知ることができた。

この結果、交通（車の運転マナー、車の混雑状況）、その他（夜間の車騒音、バイクの騒音）について比較的に満足度が低いようである。また、交通（バスの本数）、環境・衛生（ゴミの不法投棄など）公共・公益施設（道路の緑化、バイクの進入防止）に関する快適性について、比較的に満足度が高いという結果が得られた。都市環境についての住民意識は、地域や年齢層によってかなり異なってくるので、今後さらに調査が必要と思われる。